

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1396号 1997年11月10日(月)

## 〈 stock market turmoil 〉

金曜日は再び世界中の株式市場が動揺した一日でした。日本では日経平均が4.22%の下げを記録しましたが、これは世界中の株式市場が示した下げ幅の中で大きくはあったものの、最大ではなかった。一日の下げ幅に「8%」という限度を設けている韓国の株式市場は、金曜日に下げた後も土曜日(半ドン)の取引の中で一時は6.4%も下げ、その後値を戻したものの、3.9%の下げを記録した。最大の下げを記録したのはブラジルの株式市場で、金曜日に6.38%の下げを記録し、サーキット・ブレーカーの発動を見ている。アルゼンチンの株式も金曜日一日で5.09%の下げを記録。

ウォール・ストリート・ジャーナル紙が日本時間の日曜日の夕方現在で報じている世界主要株式市場の先週最終取引日の対前日引値日%での変動と引値は以下の通りです。フィリピンとタイの市場がかうじて前日比上げを記録して終わった。

## アジアの株式市場指数

Market	Index	Nov. 8	Change
Australia	All Ordinaries	2513.40	- 2.24%
Hong Kong	Hang Seng	10104.50	- 2.96%
Indonesia	JSX Index	466.116	- 2.67%
Japan	Nikkei	15836.36	- 4.22%
Malaysia	KLSE Composite	707.45	- 3.23%
Philippines	PSE Index	1893.61	+ 0.03%
Singapore	STII	1671.25	- 1.14%
S. Korea Korea	Composite	495.70*	- 3.87%
Taiwan	Weighted	7670.76*	- 2.41%
Thailand	SET	493.04	+ 3.08%

## アメリカ大陸の株式市場指数

Market	Index	Nov. 7	Change
Argentina	Merval Index	651.18	- 5.09%
Brazil	Bovespa Index	8832	- 6.38%

Canada	300 Composite	6851.74	- 1.58%
Mexico	IPC Index	4664.49	- 2.42%

( ニューヨーク市場の金曜日の引値は 7581.32 ドル安で、101.92 ドル、1.33% の下落だった )

### 欧州の株式市場指数

Market	Index	Nov. 7	Change
Belgium	Bel-20	2267.13	- 2.80%
Britain	FT-SE 100	4764.30	- 2.05%
France	CAC 40	2699.71	- 2.95%
Germany	DAX	3699.89	- 3.24%
Italy	MIBtel	14791	- 2.06%
Netherlands	AEX	849.17	- 2.40%
Spain	General	554.94	- 2.51%
Sweden	Affaersvaerlden	2891.51	- 2.23%
Switzerland	Swiss Market	5438.60	- 2.14%
S. Africa	All Gold	861.5	- 1.83%

### 〈 chain reaction 〉

世界中の株式市場を不安定にしているのは、一つの市場の下げが別の市場の売りを誘うというチェーン・リアクションの継続と、依然として強く見られる「投資家の不安心理」です。後者について言えば、日本では「横浜銀行が株式の持ち合いから完全撤退する」との記事が市場心理を不安定にし、韓国市場では「韓国の外貨準備が底をつき、IMF に支援を要請した」との新聞報道や噂が外人投資家の売りを誘った。韓国政府は、「無責任な報道」とこれを非難。ブラジルの株式市場では、「地場銀行の経営不安」に関する噂が相場を不安定にした。

二つの国をまたいだ噂も出ていました。金曜日の世界的な株式市場の中では、日本以外では韓国とブラジル、アルゼンチンが目立ちましたが、そこでささやかれた噂は、「国内での不良債権の積み上がりに直面した韓国の銀行が、高い利回りを求めてブラジルを含む中南米の債券を借入資金によって大量に保有している。国内株式の不振などによって、今その債券を大量に売却している」といった噂です。アジアの危機で、日本の銀行の不良債権積み上がりに様々な思惑のあるのも、そうした「国際的な不安材料」の一つでしょう。

今のところこうした国際的な動揺に歯止めになっているのは、アメリカの株式市場です。金曜日はダウで100ドル強の下げでしたが、週間で見ればニューヨークの株式相場は上げて終わっている。ただし、金曜日のニューヨーク市場全体を見ると、やはり少し変調し

ている。10月の雇用統計が市場の予想を上回る強さになった時の反応として、株は売られて債券が買われるといういつもと逆の動き。資金の流れが、「より安全」を求めて動いていることを示している。アメリカ経済が強いことは、普通は株にとって好材料、債券にとっては弱材料になる。金曜日は全く逆だった。

今週もこうした世界的な「不安心理」は続くでしょう。金曜日はタイの株式市場は首相交代の動きなどもあって上げましたが、アジアの株全体を見てまだ持続的に上げる力はないように見える。日本を含めてアジアの他の市場も、押し目の買いが入って大きく反発する場面があっても、底意は弱いと思われます。

ファンダメンタルズから見て、アメリカ、それにブラジルを除く中南米市場はアジアほど下げる理由はない。また欧州の株式市場も、世界的なムードの中で下げている面がある。世界の株式市場にとって今一番の悪夢は、世界で一番安い金利を提供している日本の金利の上昇ですが、これが当面予想されないのは一つの安心材料です。

### 〈 FOMC on Tuesday 〉

アメリカ経済は、依然として極めて強い動きを示している。最近の株の下落を「salutary event」と呼び、「株が下がったことでアメリカの経済活動がより望ましい、持続可能なレベルに落ちるかも知れない」と言っていたグリーンズパンの希望は、まだかなっていない。また、アジアの経済混乱もアメリカ経済には抑止要因とはなっていない。

先週金曜日に発表された10月の雇用統計は極めて強いものでした。まず、失業率は9月の4.9%から4.7%に低下した。これは、1973年10月の4.6%以来24年ぶりの低水準。非農業部門就業者数は、予想の「21万5000人増」に対して、28万4000人の増加（9月は26万9000人増）となった。また時間当たり労働賃金（6セント上昇して12.41ドルに）、製造業の週平均労働時間（0.2時間増えて42時間）も米経済の強さを示した。

製造業の雇用増加数は5万4000人で、これは一ヶ月の米製造業での雇用の伸びとしては7年半ぶりの大幅なもの。特に雇用が増えているのは、コンピューター・サービス、エンジニアリング、経営サービスなどの分野。サービス産業での雇用の伸びも大きい。雇用統計では、あらゆる面でのアメリカ経済の強さが現れている。

株の不安定化や、アジアの経済での混乱がアメリカ経済にマイナス材料となってくるのはこれからです。10月の統計だけで、今後のアメリカ経済を見失ってしまうのは危険がある。グリーンズパン議長が言うように、アメリカ経済の冷却が起きるかも知れない。しかし難しい選択を迫られるのは12日に開かれるFOMCです。世界中の株式市場混乱の中では常識的には動けないという見方に分がある。

「(先週利上げしたイングランド銀行よりは)FRBは世界の株式市場の動きに関心を払わざるを得ないだろう」

という欧州のエコノミストの観測が常識的なところ。しかし、アメリカ経済を cool off し、株式市場の「irrational exuberance」(根拠なき熱狂)がなくなった方が世界経済の為に良いと考えることが出来ないわけではない。従って、利上げしてくる可能性がゼロだとは考えません。

また、FOMC は次の FOMC までに経済環境や世界の金融市場の環境が変化したら、電話による FOMC やグリーンズパン議長の判断によって市場金利を動かす権限を与える可能性があります。ニューヨークの株式市場が大きな下落に見舞われたら、1987年のブラックマンデー時のように利下げを検討せざるを得ない事態もあります。日本と違って経済が強いだけに、アメリカの金融当局は難しい選択を迫られそうです。

今週の予定の中では、既に触れた12日のFOMC以外では、同日のグリーンズパン連邦準備制度理事会議長とサマーズ財務副長官の「アジア通貨危機について」の下院銀行委員会の証言が注目。指標では、14日の米小売売上高、卸売物価(ともに10月)が重要。国内では、同日に自民党の第二次景気対策が発表される。

### 〈 have a nice week 〉

国立競技場の回りでテントを張ってまで応援していたファンの希望は、また一步前進しました。もうマレーシアへの航空チケットは「プラチナ」になっているでしょう。そう、イベントは人間を活性化させる。元気のない日本経済には、良いカンフル剤でしょう。「景気は良いか悪いか」などと国内で議論しているよりは、こうしたイベントがもっと増えれば経済の為にいいと思います。

本を一冊紹介しましょう。新潮社から出た黒野十一さんの「カジノ」。むろん、黒野十一というのはペンネームで、本名は「山本 一郎」。KKK で有名になったあの山本さんと全くの同姓同名だからというので、ブラックジャックにかけてのペンネーム。この本の作者と私は、「よく麻雀をし、そしてブラックジャックを六本木で一緒にやった仲」なので。実に多才な人で、言葉もフランス、イタリア、スペイン、そして当然英語、日本語とできて、「ヨーロッパに行くと、言葉が全然わからないのはドイツだけ」と言っただけ。

カジノ本はいくらでもあるでしょうが、これだけ分厚く、かつ面白く、かつ示唆に富み、歴史にも明るく、そして茶目っ気のある本は珍しい。320ページという大部で、しかも二段組。「俺の本に対する小言の一つは、量が多すぎるということなんだよ……」と自分で言っただけですが、でも退屈しないことだけは請け合いです。まあ私は一緒に彼とよくブラックジャック・テーブルでディーラーと相対し、その時の彼の癖などを見ていますから、それを思い出しながら本を読むと実に面白く読める。実は、私と彼がセットでカジノに行っただけで負けたことはほとんどない。だから、「伊藤+山本」は運がいいんだ……とお互い

に思っていて、「そのうち一緒にラスベガスに行こう」ということになっている。

この本ではまず言葉を覚えます。「house edge」から始まって様々な。それぞれのゲームの紹介、歴史。最後には、「ギャンブルが登場する小説、映画」のコーナーもある。カジノに入るときは、心の高鳴りを覚える。ドキドキする。だからカジノは楽しい。負けても行きたくなるが、しかし行くからには勝ちたい。勝つためには「ルール」を知らなければならぬ。ただ単にゲームのルールだけではなく、勝つための「方式」を……と思っている人、「最近はおもしろい本がない」と思っている人には是非お勧めです。

<http://www2.gol.com/users/ycaster/>